

令和 2 年度 御幸が原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人権尊重の精神を基盤に，児童が多様な人々との「協働」を通して，自ら未来を創造したくましく生き抜く人間力の基礎を培う。

〈目指す児童像〉

「発見」：新しい知との出会いや初めての経験を通して，自分の可能性や仲間のよさを発見する児童

「挑戦」：明確な目標をもち，仲間と協力しながら困難な課題に取り組み，前向きに夢を追う児童

「創造」：日々の学びの中から，新しい自分や多様な価値観を生みだし，時代を築く力をもった児童

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

・様々な社会変化に柔軟に対応し，新しい時代を生きる力を育成するため，児童が自ら考え行動しながら自己表現できる機会の創生と，仲間との「協働」を通して豊かな人間性を育む教育活動を展開する。

・教職員が熱意と英知を集結し，児童の成長を願い，家庭・地域と連携しながら活気に満ちた教育環境を醸成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）児童が個々の力を発揮するとともに，仲間と互いのよさを認め合いながら，新しいことに挑戦し伸びていく機会の創出に努める。

（２）教職員は児童一人一人の良さを認め課題に寄り添いながら，褒めて励ます指導を通して児童との信頼関係の構築に努める。

（３）地域社会・保護者・地域学校園内小中学校と連携し，目標を共有しながら，地域教育資源の効果的な活用を図ることにより，「社会に開かれた教育課程」の具現化に努める。

（４）「児童が課題意識をもって主体的に取り組む授業」を通して基礎学力の定着を図るとともに，対話型の課題解決学習を取り入れながら，知識を活用する能力の育成に努める。

（５）教職員が組織力を生かして課題に対峙し支援機能向上に努めるとともに，校務の改善や保護者ボランティアの効果的な活用を通して，教職員の勤務時間の適正化を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

学習や学校行事を通して、学校生活に意欲をもって取り組む子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- ・各教科の指導内容との関連性を重視し，学年行事・特活・総合的学習等の時期や内容を設定する。
- ・地域社会の教育資源を効果的に活用し，学習活動の場の広がりや習得の深まりを目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・教職員が学校課題を共有し，方向性を明確にして解決に向かう学校組織の機能向上。
 - 児童一人一人が自分の居場所をもち，仲間と認め合いながら，力を発揮できる場の創生。
 - ・地域社会への積極的な情報発信による信頼関係の構築と地域教育力の効果的な活用。

【学 習 指 導】

- ・協働して課題解決を図りながら，学びを深める授業づくりの推進。
 - ・習熟度に応じた学びの複線化の工夫と，学習内容の定着を図る指導の徹底。

【児童生徒指導】

- 認め励ます指導を通した自己有用感の涵養と、目標をもち活動に主体的に取り組む態度の育成。
 - ・ 規範意識（含授業規律）の高揚と、多様性を理解し仲間と認め合いながら伸びていく集団の形成。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 児童が運動能力に関する自分の課題を知り、楽しみながら体力の向上を図る体育活動の充実。
 - 「健康・安全」「食」に関する課題の把握と、実践力を伴う生活改善の意識の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価									
児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 漢字の読み書きや計算力定着を図る指導の充実を図る。 ・朝の国算チャレンジタイムを活用した学習支援の充実(国語ドリルなど) ・宮っ子ステップアップシートの活用 ○②家庭学習習慣の確立のための工夫を図る。 ・「みはらっ子家庭学習の手引き」の活用 ・自主学習ノートの活用と啓発と保護者への協力依頼 ③ 話合いの仕方の指導 ・話合いの意図的な設定と工夫	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.8</td><td>91.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.4</td><td>90.9</td></tr></table> ・児童教職員ともに肯定的回答が90%を超えた。学力向上のために、朝のチャレンジタイムに担任外の職員が支援に入る体制を作り、内容を計画的に進めるなど、個に応じた指導を充実させることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、引き続き多くの支援が入る体制を整えたい。 ・自主学習ノートの活用について学校全体で共通理解を図り、系統的・計画的に指導する。 ・話合いの仕方の指導について、発達段階に応じた学習スキルを掲示する。		R1	R2	児童	91.8	91.3	教職員	96.4	90.9
		R1	R2										
児童	91.8	91.3											
教職員	96.4	90.9											
目指す児童の姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。 ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施 ・年間35時間、道徳の授業の実施 ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ② 人権教育を全校体制で推進し、自他を大切に思う心や態度・実践力の育成に努める。 ・教職員対象の人権ワークショップの実施。 ・人権週間の設定	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>児童</td><td>85.4</td><td>89.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>89.3</td><td>93.9</td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答が80%を上回り、90%近くの値となった。 ・休校で授業の遅れや行事の中止や縮小が続く中でも、児童の思いやりを育むのにふさわしい学級づくりができていたと思われる。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き道徳教育を中心とした豊かな心を育む指導を目指していく。 ・教職員対象の人権教育ワークショップを行い、教職員の人権意識も高めていく。		R1	R2	児童	85.4	89.9	教職員	89.3	93.9
	R1	R2											
児童	85.4	89.9											
教職員	89.3	93.9											

A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 「みはらのきまり」をもとに週の生活目標を設定し、全職員が同じ姿勢で指導や支援にあたる。 ・週の目標は行動目標とし、同一步調で指導にあたる。 ・「みはらのきまり」と「めざせ スーパーみはらっ子」との関連を図る。 ② 全職員の共通理解の下、全校体制で組織的に支援に当れるよう、報告及び情報交換を確実にやっていく。 ・児童の情報交換会や児童指導部会（毎月）の実施	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>86.0</td><td>84.1</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>89.3</td><td>75.8</td></tr> </table> 児童の肯定的回答は80%以上であったが、教職員の肯定回答が80%を下回った。学校が目指す児童像には達していないと感じている教職員が少なくない。 【次年度の方針】 ・「めざせスーパーみはらっ子」カードの活用について、年度当初に説明の時間をしっかりと設け、全教職員が同一步調で指導していけるようにしていく。 ・委員会の活動内容を見直し、児童の主体的な活動を促していく。		R1	R2	児童	86.0	84.1	教職員	89.3	75.8			
	R1	R2												
児童	86.0	84.1												
教職員	89.3	75.8												
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・教職員・地域住民の肯定的回答80%以上	① 児童会（あいさつ委員会）が中心となってあいさつ運動を実施する。（毎週火・金曜日の朝実施） ・学校だより・学級懇談会であいさつ励行を保護者に伝える。 ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用 ・あいさつ標語・ポスターの募集 ② 地域連携及び地域学校園で共通課題として、あいさつ運動を展開する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>94.3</td><td>94.9</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.7</td><td>75.8</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>82.6</td><td>93.1</td></tr> </table> 児童・地域住民の肯定的回答は90%以上であったが、教職員の肯定回答が80%を下回った。きまりやマナーを守ることと同様に、学校が目指す児童像には達していないと感じている教職員が少なくない。 【次年度の方針】 上記A3の方針と併せて行っていく。		R1	R2	児童	94.3	94.9	教職員	85.7	75.8	地域住民	82.6	93.1
	R1	R2												
児童	94.3	94.9												
教職員	85.7	75.8												
地域住民	82.6	93.1												
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>89.9</td><td>86.0</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.7</td><td>87.9</td></tr> </table> 児童・教職員の肯定的回答はいずれも85%以上であった。日頃から学級での取り組みや励ます指導に努めた成果が出ている。 【次年度の方針】 数値目標は達成できたが、昨年に比べると若干下がっているため、さらに認め励ます指導を継続していく。		R1	R2	児童	89.9	86.0	教職員	85.7	87.9			
	R1	R2												
児童	89.9	86.0												
教職員	85.7	87.9												

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、自分の健康に気を付けて生活している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の生活についての実態調査等をもとに基本的生活習慣について（特に睡眠時間・食生活）、家庭との連携を図り啓発や指導をする ② 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。 ③ 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ④ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>保護者</td><td>86.6</td><td>87.2</td></tr> </table> コロナ禍において、うがい・手洗い、マスク着用の徹底もあり、達成状況が若干ではあるが上がったのではと考える。 【次年度の方針】 オンラインゲームやSNS等の普及により児童が液晶を見る時間が増えているのは否めない。基本的生活習慣の徹底だけでなく、睡眠時間やゲーム時間など、児童の発達段階に合った指導を引き続き行う必要がある。		R1	R2	保護者	86.6	87.2			
	R1	R2									
保護者	86.6	87.2									
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>89.9</td><td>86.0</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.7</td><td>87.9</td></tr> </table> 児童・教職員の肯定的回答はいずれも 85%以上であった。今年度は体験活動が中止になってしまったが、学級での励ましが成果として表れている。 【次年度の方針】 一人一人が自らのよさを自覚できる活動や励ます指導を続けていく。		R1	R2	児童	89.9	86.0	教職員	85.7	87.9
	R1	R2									
児童	89.9	86.0									
教職員	85.7	87.9									
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 日常的に英語のあいさつやゲームを取り入れたり、英語の絵本を図書室に置いたりして英語に親しむ環境を整える。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>83.7</td><td>78.7</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.2</td><td>78.8</td></tr> </table> 児童・教職員の肯定的回答が 80%を下回った。今年度は、新型コロナウイルス対策のため、児童同士のコミュニケーション活動が制限されたことも起因していると考えられる。 【次年度の方針】 ・担任がALTと十分に打ち合わせを行ったり、教材研究を行ったりし、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる授業づくりを行う。 ・密にならないようにソーシャルディスタンスを考慮しながら、友達とコミュニケーションできるように授業形態を工夫する。		R1	R2	児童	83.7	78.7	教職員	85.2	78.8
	R1	R2									
児童	83.7	78.7									
教職員	85.2	78.8									

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市や御幸ヶ原町の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市や御幸ヶ原町の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>80.1</td><td>78.0</td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が昨年度よりやや下回ったが、感染症対策をしながら、2年生の生活科、3・4年の総合的な学習において、宇都宮市や御幸ヶ原町の施設を活用することができた。他の学年においては、給食の献立等で地場の食材や料理に触れることができた。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の内容を全学年において指導できるよう、年間指導計画の整備をする。特に、5・6年の総合的な学習において、地域の特色を生かした計画立案を行う。		R1	R2	児童	80.1	78.0			
	R1	R2									
児童	80.1	78.0									
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>84.7</td><td>82.1</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.2</td><td>93.9</td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が前年度より上回った。教職員が、プログラミング学習について研修を行ったり、ICTを活用した授業づくりに取り組んできた成果と考えられる。 【次年度の方針】 ・プログラミング学習の実施に向けて、各学年の発達段階に応じた計画を立てる。次年度から児童一人一人に導入されるタブレット端末の効果的な活用方法について、教職員が十分に指導内容を理解し、授業実践を行う。職員研修の重点化を図る。		R1	R2	児童	84.7	82.1	教職員	85.2	93.9
	R1	R2									
児童	84.7	82.1									
教職員	85.2	93.9									
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 総合的な学習の時間や各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。 ・児童会による「感謝の会」の実施 ・生活科における昔遊びでの交流	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>85.4</td><td>89.9</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>89.3</td><td>93.9</td></tr> </table> 児童・教職員の肯定的回答はいずれも85%以上であった。道徳の授業の充実、日頃からの人権教育に基づく指導の成果が出ている。 【次年度の方針】 引き続き、道徳の授業の充実と全教育活動を通しての人権教育を実施していく。		R1	R2	児童	85.4	89.9	教職員	89.3	93.9
	R1	R2									
児童	85.4	89.9									
教職員	89.3	93.9									

目 指 す 学 校 の	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 総合的な学習の時間や児童会活動における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・3年「地球にいいことはじめよう」での探究学習 ・環境委員会を中心としたリサイクル活動の推奨 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>児童</td><td>81.0</td><td>82.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>33.3</td><td>42.4</td></tr></table> ・児童・教職員ともに昨年度より肯定的回答が上回った。児童の生活の中での関心に結びつくように、教科や総合的な学習での指導内容を工夫してきた成果と考えられる。 【次年度の方針】 ・環境問題や防災について、生活に結び付けた内容の選択、指導の見直しを行う。児童会の委員会活動等で実践されている内容が「持続可能な社会」実現にどう結びついているか、活動の意義を改めて考えさせる指導を行う。		R1	R2	児童	81.0	82.1	教職員	33.3	42.4
		R1	R2										
	児童	81.0	82.1										
教職員	33.3	42.4											
B1 児童は、本の楽しさを味わっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで読書をしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 読書意欲の向上のための環境整備 ・指導の充実を図る。整備 ・読み聞かせの充実 ・朝の読書タイム ・読書週間の実施（委員会） ・お話し会 ・家読のすすめ【親子読書等】 ・読書記録の活用 ・必読図書の充実 ・読書マッチョマンカードなどの多読賞 ・新刊本、お薦め本の紹介 ・市立図書館の活用 ・図書館だよりの発行	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>児童</td><td>82.3</td><td>80.4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>64.9</td><td>65.9</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答が 64.9%と目標数値を 15 ポイント以上下回った。児童は、学校での読書には進んで取り組み、喜んで読書をしている。図書室の環境整備は、多くの学習支援ボランティアの参画もあり、大変充実してきている。しかし、家庭において読書週間が習慣化されていない状況があると考えられる。 【次年度の方針】 ・引き続き環境整備に取り組んでいく。家庭と連携した「読書週間づくり」に取り組む。		R1	R2	児童	82.3	80.4	保護者	64.9	65.9	
	R1	R2											
児童	82.3	80.4											
保護者	64.9	65.9											
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・「チームみはらの特別支援教育」の推進 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>92.4</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員の肯定的回答が 100%であった。 全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解が図れ、一人一人のニーズを踏まえた支援が組織的に行えている。 【次年度の方針】 次年度も引き続き、全職員で共通理解を図り、児童の実態に応じて、適切な支援をしていく。		R1	R2	教職員	92.4	100.0				
	R1	R2											
教職員	92.4	100.0											

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① いじめの早期発見・早期対応のためのアンケートを実施し（年 5 回）、気になる児童への教育相談を行う。 ② いじめゼロ強調月間（5 月・9 月）の取組を実施し、いじめは決して許されないことを理解させる。また、なかよし委員会の活動により、児童の自発的な活動を促す。 ③ いじめ対策における学校での取組みを、学校だよりや学年だより(学期に 1 回)に載せ、保護者に伝え、連携を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.8</td><td>98.3</td></tr><tr><td>保護者</td><td>71.3</td><td>77.8</td></tr></table> いじめ対策における学校での取組みが十分に保護者に伝わっていない。また、今年度は、感染症予防のために集会活動が制限されたが、児童が主体的に関わる活動の設定が必要だったと考えられる。そうした児童の活動の様子や学校の取組みを積極的に伝えることも必要であった。 【次年度の方針】 いじめ対策における学校での取組みを、学校だよりや学年だより(学期に 1 回)に載せ、保護者に伝え、連携を図ることに力を入れていく。		R1	R2	児童	96.8	98.3	保護者	71.3	77.8
		R1		R2									
	児童	96.8		98.3									
保護者	71.3	77.8											
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う暮をつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用 ② 教育相談、アンケート、Q U 調査等の結果を活用し不登校傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ いじめの早期発見・早期対応のためのアンケートを実施し（年 5 回）、気になる児童への教育相談を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.3</td><td>97.1</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・児童の肯定的回答が 94%と高い。「めざせ スーパーみはらっ子」の取組により、児童一人一人を大切に学級経営が実現している。児童が、教職員を信頼して、「居のいい学級」づくりにともに取り組んでいる。 【次年度の方針】 ・不登校傾向にある児童に対して、組織的に早期の対応を行っていく。教育相談やアンケートの結果から、学校生活への不安に対しても早期に対応していく。		R1	R2	児童	94.3	97.1				
	R1		R2										
児童	94.3		97.1										
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導教師の活用を行う。 ④ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>92.4</td><td>100.0</td></tr></table> 教職員の達成状況が 100%であった。実態に応じて適切な支援がなされていると考えられる。 【次年度の方針】 継続して、外国人児童への適切な支援を行っていく。		R1	R2	教職員	92.4	100.0				
	R1		R2										
教職員	92.4		100.0										

A 17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めるとともに、児童会・委員会活動など児童の主体的活動を積極的に展開する。 ・代表委員会を中心とした委員会活動の活性化 ・学級での活動の充実 ・ふれあい班活動の充実 ② 異学年・幼児・高齢者・地域・学校支援ボランティアなどとのふれあいの機会や交流活動の充実を図る。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。 ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>87.9</td><td>87.2</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>89.7</td><td>89.2</td></tr> </table> 児童・保護者とも若干数値は下がったが、ほぼ肯定的な状況であった。 【次年度の方針】 感染症の動向を見ながら、可能な限り、児童主体の活動や異学年交流、ボランティア活動の充実を図る。スーパーみはらっ子の活動も様々な方向から継続発展を考えて活動を継続していく。		R1	R2	児童	87.9	87.2	保護者	89.7	89.2
	R1	R2									
児童	87.9	87.2									
保護者	89.7	89.2									
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○① 学校課題に沿って指導目標を明確にし、分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努める。 ・学習課題、「めあて」の明確化 ・分かりやすい板書の工夫 ・話し合い活動の充実 ② T Tや少人数・習熟度別による指導を充実させ、成就感を味わわせるとともに補充のための学習を充実させる。(3学年～)	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>95.2</td><td>97.3</td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が97%と昨年度より高かった。学校全体で学習規律を徹底し、学校課題に沿った研修を行い、「分かる授業」の実践に取り組んできた。3年生以上の算数における少人数指導や、朝のチャレンジタイムでの担任外の教職員によるきめ細やかな支援ができた。 【次年度の方針】 ・T Tや少人数・習熟度別による指導を充実させる。朝のチャレンジタイムでの担任以外の教職員の支援を計画的に行う。		R1	R2	児童	95.2	97.3			
	R1	R2									
児童	95.2	97.3									
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 「チームみはら」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。 ② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>92.9</td><td>90.9</td></tr> </table> 2ポイントほど下がったが、肯定的回答が高い状況である。 【次年度の方針】 チームみはらの合言葉のもと、継続して一丸となって同僚性を高め、協力体制のもと業務に取り組んでいく。		R1	R2	教職員	92.9	90.9			
	R1	R2									
教職員	92.9	90.9									

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1034 174 1492 253"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.7</td><td>78.8</td></tr> </table> 約8ポイント下がった。業務の効率化については、大変厳しい状況だと考えられる。 【次年度の方針】 業務が物理的に減少しない限り、多忙感は解消されず、負担軽減はなされない。次年度も人員削減に伴い業務量の見直しは期待できない。「業務の効率化」を「業務のスリム化」または「業務の削減」という文言に置き換え、年度当初からこの観点で共通理解し、業務の一層の見直しを図る。		R1	R2	教職員	85.7	78.8			
	R1	R2									
教職員	85.7	78.8									
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園各部会・分科会毎に今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。 ・各部会、分科会の進捗状況について情報共有する。 ② 5校連教育講演会や全体研修会の実施により、小中の相互理解を深める。	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1034 795 1492 873"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>92.9</td><td>87.5</td></tr> </table> 5ポイントほど下がった。これは、コロナ禍で実際の会議を持てなかったことや会議でメンバーがそろって集合できなかったことが反映していると思われる。 【次年度の方針】 令和2年度に、5校連が解散したため、②の教育後援会の実施は次年度から中止となった。地域学校園の活動そのものは継続し、一層強力関係を強めて取り組んでいく。		R1	R2	教職員	92.9	87.5			
	R1	R2									
教職員	92.9	87.5									
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 御幸が原小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1034 1332 1492 1456"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>保護者</td><td>87.5</td><td>87.7</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0</td><td>93.1</td></tr> </table> 地域住民のポイントが下がったが、コロナ禍で学校への来校が極端に減ったことが原因ではないかと考えられる。 【次年度の方針】 地域住民の力を借りて、地域協議会での活動を一層充実させる。今年度は、児童の授業の様子を参観したり、給食をともに食べたりする活動ができなかったのが、次年度は、感染症の状況をみて実施したい。		R1	R2	保護者	87.5	87.7	地域住民	100.0	93.1
	R1	R2									
保護者	87.5	87.7									
地域住民	100.0	93.1									

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 御幸が原小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>保護者</td><td>87.5</td><td>87.7</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0</td><td>93.1</td></tr> </table> 両者ともポイントは下がったが、前項目と同様に、コロナ禍の影響があると思われる。今年度は校外からの出前授業や校外学習の制限が大きかった。児童の体験の場に大きな制限があったことが要因と考えられる。 【次年度の方針】 前項目 A22 に応じて、学校支援ボランティアの活動を一層充実させていく。また、感染症の状況に応じて、地域や企業との連携を図った授業を計画していく。		R1	R2	保護者	87.5	87.7	地域住民	100.0	93.1
	R1	R2									
保護者	87.5	87.7									
地域住民	100.0	93.1									
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>教職員</td><td>89.3</td><td>96.9</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>89.1</td><td>90.7</td></tr> </table> 両者とも若干ではあるがポイントは上がった。今年度は感染症予防を最優先に校内の対応を行ってきた結果であると考えられる。感染症予防への教職員の意識が高かったことが分かる。 【次年度の方針】 安全を最優先に考え、次年度も引き続き環境づくりに努めていきたい。SSSや学校支援ボランティアの活用をさらに図っていく。		R1	R2	教職員	89.3	96.9	保護者	89.1	90.7
	R1	R2									
教職員	89.3	96.9									
保護者	89.1	90.7									
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th></tr> <tr> <td>児童</td><td>84.7</td><td>82.7</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>85.2</td><td>93.9</td></tr> </table> 教職員は、積極的に活用していると考えられているが、児童の達成状況は2ポイントほど下がった。家庭でも様々な情報機器を使っている現状があり、もっと学校でも活用したいと考えているのかもしれない。 【次年度の方針】 令和3年度は、児童一人ひとりにタブレット端末が配付される予定である。市から様々な指示が出ることが想定されるので、ICT機器をさらに積極的に活用していくことにする。		R1	R2	児童	84.7	82.7	教職員	85.2	93.9
	R1	R2									
児童	84.7	82.7									
教職員	85.2	93.9									

	B 2 学校は、人権尊重及び自他の生命や存在を大切にしている児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「先生は、自分の話や悩み・相談などを真剣に聞いてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。 ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施 ・年間35時間、道徳の授業の実施 ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ② 人権教育を全校体制で推進し、自他を大切に思う心や態度・実践力の育成に努める。 ・教職員対象の人権ワークショップの実施。		【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.7</td><td>95.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>77.0</td><td>81.9</td></tr></table> 【次年度の方針】 ・児童の肯定的回答が目標数値を大きく上回っている。「スーパーみはらっ子」の取組みによって、よりよい学校生活を目指す前向きな取組みが日々行われている。保護者の肯定的回答も80%を超え、学校の取組みが理解されてきている状況である。 【次年度の方針】 ・今後もさらに児童の困り感についての保護者からの相談に対して、きめ細かな対応を行っていく。		R 1	R 2	児童	94.7	95.7	保護者	77.0	81.9
	R 1	R 2											
児童	94.7	95.7											
保護者	77.0	81.9											
本校の特色・課題等	B 3 学校は、「自分を伸ばし、仲間と伸びる児童」を育てる教育活動を工夫している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、『自分を伸ばし、仲間と伸びる児童』を育てるために、教育活動の活性化に努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 児童の発想を生かした児童会活動や、仲間と力を合わせて取り組む学校行事や学年行事の内容充実を図る。 ・あいさつ運動や地域清掃活動等、児童の発想を生かした委員会活動 ・児童によるスローガン募集と運動会運営 ・児童集会の内容充実 ・募金活動等 ・チャレンジギネス等の活動		【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 1</td><td>R 2</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.6</td><td>80.9</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr></table> 地域住民は、本校の教育活動に大きな信頼を寄せている。保護者も昨年度から大きくアップした。コロナ禍でも、様々な活動を工夫して実施してきた実績を認めてくださった結果と考えた。 【次年度の方針】 令和2年度は、集会活動など「密」になる活動ができなかった。次年度は新型コロナの動向を見つつ、可能なかぎり児童の発想を生かした活動が継続できるように支援を続ける。		R 1	R 2	保護者	73.6	80.9	地域住民	100.0	100.0
	R 1	R 2											
保護者	73.6	80.9											
地域住民	100.0	100.0											

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体的に、児童・保護者・地域住民・教職員のいずれも高い肯定的回答率を得ることができた。
- ・「児童は進んで学習に取り組んでいる」「児童は思いやりの心をもっている」等の肯定的回答率が高かったり、昨年度から上昇していたりする。このことから、感染症対策のための長期休校明けからの学校再開、その後の指導の中で、教職員が、児童一人一人が安心して学習に取り組んだり、人間関係を結んだりできるように指導にあたった成果と考えられる。
- 「児童は決まりやマナーを守って生活をしている」「児童は時と場に応じたあいさつをしている」に対する教職員の肯定的回答が昨年度よりも10ポイント低下している。これは、感染症予防のために集会活動や児童の自発的協同的活動が制限されたために、児童のよさを発揮する場が設定できなかったことや、十分に児童の個性やよさを伸ばさせられなかったという教職員の思いが表れているととらえられる。これまでの学校での児童指導の取組みを継続し、児童のよい生活習慣や学習態度につなげていきたい。
- ・昨年度、新たに導入された「宇都宮学」「プログラミング学習」に対しての肯定的回答率が上がってきている。それぞれのねらいを教職員が十分に理解して、指導内容に工夫してきた結果と思われる。今後も、GIGAスクール構想等について教職員が十分研修して理解を深め、児童の指導にあたっていく。
- ・「いじめへの指導」「児童を伸ばす教育活動」に対する保護者の肯定的回答率が上がってきている。今後も、学校がさらに情報発信を行い、学校の取組みを理解していただくことにより、保護者との連携を図っていく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・今年度も、全体的に肯定的回答率が高かった。感染症の拡大によって休校が長期化したり教育活動が制限されたりした中であったが、学校の取組みについてご理解をいただくことができたと思われる。地域協議会の場では、地域の方々から教育活動のさらなる質の向上や児童へのきめ細かな支援の実現のために、積極にご意見をいただくことができてありがたかった。
- ・学校からの呼びかけに応じて、地域の方々のボランティアとしての参画が大変多く、児童が安心して生活できる環境を整えることができた。特に、毎日の児童下校後の校内消毒、早朝の校庭の除草等、児童の安全を願って活動してくださる方々には、深く感謝申し上げたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 次年度も、教職員が自らの資質向上に努め、「主体的・対話的で深い学びを追求する授業づくり」や「よりよい学級・学校づくりへの意欲と行動力を高める指導の充実」を実践していく。
- ・学校内外における「時と場に応じたあいさつ」「きまりやマナーを守った生活」の習慣化、「思いやりや感謝の心の育成」については、家庭・地域・地域学校園との連携を密にし、地域ぐるみで取り組んでいけるよう、啓蒙や情報交換を継続していく。
- ・次年度も、学校から学校教育に関わる様々な情報を発信したり、家庭・地域の教育力を教育活動の中で効果的に活用できるよう協力依頼をしたりすることによって、学校・家庭・地域が連携をより強化し、学校のチーム力を高めることで教育活動全体の質の向上を目指す。